

日本470協会 理事会 議事録

2011年4月26日（火）18:30～

岸記念体育会館 505会議室

出席者： 渡邊、倭、松山、信時、戸張、秋元、武田、相澤、京黒、松崎、柚木、大森
（順不同 敬称略）

1. 2011年度人事（信時） 添付【理事会議案 人事・組織】

今年度の人事・組織の体制報告

<変更箇所>

○水域理事（中部）は、恒川理事に代わって松崎敏雄（豊田自動織機勤務）理事が新任。

恒川理事は、今後、計測アドバイザーとしてご尽力頂く。

今年は全日本が中部水域なので、みんなで力を合わせて頑張りましょう。

○小島理事が、ご本人のご意向により理事を退任。

2. 2010年度会計報告（武田） 添付【平成22年度収支決算】

今までと大きく変わっている点は、セールステッカーの収支の項目。

今までは日本円で決済していたが今期の途中からユーロ決済となった為、別枠で会計報告している。

その他、特別会計として海外遠征支援金を計上。

3. セールステッカー購入等でのユーロ口座開設について（戸張・信時・武田）

国際470協会が一般に販売しているセールステッカーの値段は15ユーロ。

日本470協会には12.75で販売してもらえる。エンドユーザーであるセールメーカーが直接購入するよりも安価で入手することが出来るので、協会を経由して購入する事にした。（1ユーロ概ね115円なので1枚あたり260円位の利益有り）

その為に、三井住友銀行（ノースセールと同じ銀行）にユーロ口座を開設。

法人名義での開設条件が厳しく手数料が高額でもあったため、

会計担当：武田朋美名義となっている。

ノースセールもユーロ口座を所有しているので、全てユーロ決済で行うことが出来る様になった。

4. 東北水域への支援について（相澤・信時）

添付【東北4県地図、東北水域の復興に向けて】

<東北水域の現状報告>（相澤）

被災の様子をスライドにて報告。全壊のハーバーの様子はまるで砂漠のよう。範囲が広く、復旧出遅れている。せっかく復旧したのも4月の余震でやり直し。選手は活動する為の装備を、県連は競技運営の為の器材を必要としているが、艇を出す場所が無い事が最大のネック。港は防波堤などの基礎的なところから作り直さないといけない状態なので、国・県・市の問題となり、私たちの手に負えない問題となっている。更に、状況的に「ヨット」とは言い出しにくい。周囲の感情的な問題。家族が被災している学生も。

学連から支援の要請が出ている。大学としても、大学自身の財産を無くしたということだが、その為に活動を辞める様にといいことにはなっていない。

ただ、支援の方法やタイミングはよく考えて行かないと、難しい問題が有る。例えば艇を提供したとすると、大学側から見れば「艇はあるではないか。」ということになって新艇を購入してもらえないと言うことにもなりかねない。まだまだ先の事になるかもしれないが。支援の Spann としては、今年中というよりは何年か先まで見据えてということになる。いろいろなところから支援の提案があり、まとめて把握していかないといけないし、協会として出来る事を長期的に考える必要が有る。支援のピークを考えて行かないといけない。少なくとも今年ではない。

県連としては、萎縮しないで活動する様に働きかけるつもり。インターハイは宮古から秋田の本庄に開催地を変更して行う予定。レースへの積極的な参加を呼びかける。頑張っているという姿を皆さんに見てもらいたい。5月14日に東北全体の集まりを盛岡で予定している。決めかねるところもあると思うが意見をまとめていい方向に持って行きたい。長い Spann でのご支援をお願いしたい。

<支援について>

（信時）

一方的な支援になってはいけないので、地元の意見や必要な事を聞いて、長期のレンジで協会が出来る事をやっていきたい。今、いろいろなところで動きがあって、その情報共有や整理をしたい。川上理事の提案、学連宛及び大学宛の支援依頼、三船理事からの支援提案、ヤマハからの提案、オクムラポーター販売からの支援提案を紹介。（詳細は、添付【理事会議案 2 ページ目以降】参照）

（会長）

関係各所に申請支援の内容を検討してもらっている。総合的にだぶらない事が必要。学連では東北3校の全日本の加盟金及び470協会の加盟金をこれから数年間は免除してはどうかという案が出た。費用の免除には学生の方は評議委員会と学連総会の決議が必要。そのため、震災後一旦中止した学連総会と評議委員会を、岸記念体育館にて6月5日に開催内定。その場でいろいろな意見が出てくると思われる。現在は各水域が独自の支援をばらばらに行っている状態。

セーリング連盟／学連／470協会としてどういう支援を行って行くか、交通整理が必要。現状では、すぐ艇が出せる状態ではない。先日青森でクルーザー1艇を出した事により地元から非難を受けた。焦らず、470協会としての支援策を考えて行きたい。

(相澤)

高校インカレは新潟で行われる予定と聞いている。

あと、質問だが、医学部系のヨット部は県連に連絡が無いのだが、協会としてはどのようなつながりがあるのか？

(会長・戸張・京黒)

入っている大学と入っていない大学が有る。医学部歯学部では個人での登録者が多い。

国立大学は大学が責任を持って再建するはず。

大学所有と個人所有のものが存在するので、難しい問題が有る。

登録料免除に関しては、以下のように決定。

「今回の震災で被害を受けたエリアで活動している団体・個人にかんしては、HPに記載してある内容の新艇登録料及び名義変更料とそれに関わる事務手続き料は免除する。」

(添付資料のように) オクムラボートさん側で対応していただく提案もあるが、計測料免除に関しては協会が負担するわけなので、協会主導で行うこととする。新艇はオクムラボートさんで通常通りの手続き・お支払いをして頂き、協会で支援窓口を設け、申請のあった艇に関して返金する。

対象エリアについては、相澤理事に状況を確認してもらう。目安としては、東北3県。千葉・茨城については、別途相談。相澤理事より、実態調査には時間が欲しいとのこと。

期間は向こう3年間、状況によっては延長有りとする。

個人の会員登録費免除は、考えない。

あとは、各水域がいろいろ考えているものをあげてもらって、協会として交通整理をして行く。その為には情報集約と共有の必要があるなので、支援窓口で対応する。支援窓口は 470 協会の総務（人選は秋元理事に一任）にお願いし、相澤理事と連絡を取り合ってすすめて行く。

(松崎)

全日本開催主体者として、どのような支援を考えれば良いか？

→関東で水域レースで出来そうな支援を検討しているので、後日連絡する。

中部水域としても宿やチャーター艇など、出来る事を検討してみる。

5. **MY ナンバーの試行案について（京黒）添付【MY ナンバー試行（案）】**

他国では無料貸し出しという形態もあるが、日本としては収入源にしたいので、貸し出しという形が理想。5年で1度返却という形にするか？

例えば人気の番号は初めから高値に設定しておくという方法もある。

また、オークションにして何%を東北支援にまわすというような形にすれば参加しやすくなり普及に役立つのかもしれない。

全水域・理事からこの試行案についての意見があれば反映したい。

あとは、検討チームの方で具体的なプランを作成し、理事会で決議することに。

6. **2016年以降の470男女クラスオリンピック継続に向けて（戸張・信時）**
添付【サブミッション】

現状はせめぎあっている状態で、楽観的でも悲観的状况でもないが、勝ち目はある。5/3から戸張理事が河野 JSAF 会長と大谷氏と共にサンクトペテルブルクに赴き、ロビー活動を行う予定。聞くところに寄ると、39 票中 24 票が 470 を支持という状況のようだ。イギリス及びフランスが意見を翻したのが大きい。追随する国が有るかもしれない。

5/7に決定予定。戸張理事が速報を送るので、広報から理事メールにて周知。

7. **海外遠征支援について（京黒）**

添付【日本470協会からのお知らせ、強化委員会の方針、海外遠征支援申込み書、フリートレース支援について】

スタープランに基づき、選手の全体的レベルアップを目標として活動して行きたい。一般については1月に公示した海外遠征支援に男子4チームの申請が有り、支援対象と決定。

1月申込のあったチームを対象に470ワールド参加チームに限り、2回目の支援を行いたい。

U22に関しては、ジュニアワールド参加チームのみを対象とする。

ユニバーシアード・470級ジュニアワールド選考大会は3月から5月13～15日に延期となっている。470協会からは、浅原理事が運営支援で派遣される予定。

昨年のジュニアワールドのレポートをHPに掲載する。

地方水域からリクエストがある学生支援に関しては、NTのオリンピックキャンペーンが終わってから具体的な検討を進めて行きたい。

地方水域にトップ層の選手（海外支援対象選手）が指導に行く事によってレベルアップを図る。地方水域の選手にノウハウをフィードバックすることが全体のレベルアップにも繋がる。

以上の支援活動の方向性に関しては了承されているが、金額に関しては財政的な面もあるので、会長と理事長に一任。東北支援もあるので、バランスを考えてやって行きたい。

8. **その他**

※ 水域予選の参加資格の統一基準作成について（信時）

添付【理事会議案 最後のページ】

参加資格を全国基準で統一したい。案を作成したので各水域にフィードバックして、問題なければこれで運用する。何か問題があれば変更してゆけば良い。

水域枠に関しては時間がないので次回。

- ※ 計測委員会より報告（浅原 代：信時）添付【計測委員会より報告】
各項目の概要を説明。詳細については読んでおいて欲しい。
なお、前計測委員長からの引き継ぎで滞っている部分が有るので、会長・理事長からも督促して欲しいとの依頼がある。

- ※ 全日本の学生3大会（団体戦、個人戦、女子大会）への後援依頼があり、これを了承した。（会長）

- ※ 9月開催予定の全日本女子ヨット選手権大会に関して（倭）
今回の震災で被害を受けた日建レンタコムグループがスポンサーを降りた。
全日本学生連盟と関東学生連盟の共催で開催する方向。

以上で理事会を閉会した。